

C-13 衣料用人工皮革の縫製条件設定のための基礎的研究 (第6報)

——縫いずれについて——

東京学芸大 大角江里子 石毛フミ子 鳴海多恵子 辻栄子
文教大教育 松田歌子 文専女大短大 山下久子

目的 縫いずれは外観低下の問題としてあげられる。人工皮革のステードタイプは、布地が厚く、且つ、平面がどこどこしているのので、縫いずれが起こりやすい。そこで、縫製方法による縫いずれの実態を調べ、縫いずれ減少の対策を考へることを目的とする。

方法 各材料から、 $5.2\text{ cm} \times 2.5\text{ cm}$ の試料をたて、よこ両方向18枚、バイヤス方向12枚を裁断。布の重め方は、① ↓↑、② ⇄、③ ↗↘、④ ↘↗、⑤ ↖↙、⑥ ↙↖、⑦ ↗↘、⑧ ↘↗、⑨ ↖↙、⑩ ↙↖、8種類とした。縫製条件は、ミシンは第4報と同じ。[糸] ポリエステル50番、[針] 皮革用針#14、[回転速度] $1000 \pm 10\text{ 回/min}$ 、[針目の大きさ] 4 針/cm 、[押圧] 1.8 kg 。
[上糸張力] 135 g 、[下糸張力] 15 g

$$\text{縫いずれ率} = a / l \times 100$$

a: すれ寸法 l: もとの長さ

縫製方法① 等間隔に9本のシルクピンをうち、そのままミシンをかける。

② 縫い目の 0.1 cm 外に、しほむど 2 cm と 1 cm の針目ごしつけをかけ、縫う。

③ 上部にピンをうち、あとはフリーの状態でもシンをかける。

以上3方法について、それぞれ3回縫い、縫いずれ率は3回の平均値を求めた。

結果 ① 方法による縫いずれ率の最も少ないのは、シルクピンうち、次がしつけ、フリーの順である。

② 布の組み合わせでは、たまたま、よこ方向を上にした場合が、最もすれは大きい。